

第44回兵庫地連定期大会

特定地域の指定に向け運動を強化

「タクシー特区」に反対する

(北坂執行委員長のあいさつ)

2014年11月08日 第44回兵庫地連定期大会を神戸市立勤労福祉会館で開きました。

全自交兵庫地連は、11月8日、第44回定期大会を神戸市立勤労会館多目的ホールで開き、新年度運動方針と新年度予算を満場一致で承認するとともに、新たに山本和也氏（ポートグループ労組）を書記次長に選出しました。

北坂隆生委員長は、冒頭のあいさつで、1月に施行された改正特措法にふれ、「特定地域の指定基準がなかなか定まらない。このままでは、新法が本当に実施されるのか危惧する。国交省や民主党ハイタク議連への働きかけを強化したい」と述べるとともに、大阪府・大阪市の特区申請に対し「これが認可されたら、今までの運動の成果が全て白紙になってしまう。そうなれば、ますますハイタク労働者が食えなくなってしまう。今回はハイタク議連のご尽力で却下された。今後も各方面の協力を得ながら反対したい」と協力を求めました。また、「公定幅運賃に従わないばかりか、訴訟を起こしているアウトロー事業者がいるため、良質な事業者、労働者がそのしわ寄せを受けている。安心して働き将来に希望が持てる業界になるためには、何でもありの事業者には退席してもらおう。我々の団結を強化して大きな運動を作っていこう」と参加者に訴えました。



来賓として祝辞を述べました伊藤実労連中央執行委員長は、東京の事業者で検討されている初乗り距離短縮運賃について、「需給調整が進まない中で運賃だけ触るのはどうか。導入されれば、運送収入は下がり、それによって労働条件が下がるのは必至。全国に波及する可能性が大きいので労連本部としては東京地連と共に反対運動を強化する」と表明しました。

大会にはこの他、連合兵庫の辻会長、兵庫県交運労協の平田議長、関西地連の加藤書記長、大阪地連の権藤書記長、横畑民主党兵庫県副代表、向山前衆議院議員、辻前参議院議員、黒田兵庫県会議員、池田神戸市会議員、人見神戸市会議員ら多数が来賓として出席し、大会参加者に祝辞を述べました。